

図画工作科における「言語能力」の整理

図画工作科における言語能力		
<ul style="list-style-type: none"> ・表現する活動において、思い付いたことや表したいこと、イメージしたことを言語化すること。また表し方や主題について、考えたことを言語化すること。 ・鑑賞する活動において、感じ取ったり考えたりしたことを言語化すること。また、他者と交流すること。 		
第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。 ・造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。 ・造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。 造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。

言語能力とその育成方法

	言語能力	育成方法	育成方法の詳細
表 現	①表現する活動において、思い付いたことや表したいこと、イメージしたことを言語化すること。また、表し方や主題について、考えたことを言語化すること。	・思いやイメージを書き出したり、話し合ったりする場を設定する。	・イメージマップやアイデアスケッチに自分の思いやイメージを言語化して表出することで、活動への見通しを持ったり、思いを高めたりする。
		・活動中の気づきを話し合う。	・活動中の気づきや疑問に思ったことなどを友達と交流することで、見方や感じ方を広げ、活動に生かすことができるようにする。
		・活動の振り返りを行う。	・作品への思いや学びの成果を振り返ることで、活動を価値付け、自分の生活や次時の活動につなげるようにする。
鑑 賞	②鑑賞する活動において、感じ取ったり考えたりしたことを言語化すること。また、他者と交流すること。	・思いを書き出したり、話し合ったりする場を設定する。	・鑑賞の対象から感じ取ったり考えたりしたことを記述したり、友達と交流したりする。 ・鑑賞の視点を提示することで、造形的な視点を持って活動ができるようにする。
		・活動中の気づきを話し合う。	・友達と考えを交流することで、見方や感じ方を広げたり、深めたりする。
		・活動の振り返りを行う。	・活動を通しての気づきを記述したり、友達と交流したりすることで、活動を価値付け、自分の生活や次時の活動につなげるようにする。

小学校第3学年2組 図画工作科学習指導案

1 題材名 絵から広がる物語

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、物語のお気に入りの場面や登場人物の心情を、形や色、表現技法などを工夫しながら、想像を広げて絵に表す活動である。国語科『たから島のぼうけん』で、児童は、場面の様子や登場人物の心情を考えて物語の創作に取り組んでいる。これまでの生活経験から、自分が書いた物語を一冊の本として完成させたいと思う児童は多いだろう。一冊の本にするためには、表紙や挿絵が必要となり、そこに造形活動を行う必然性が生まれる。児童は、自分の思いを基に発想を展開し、一冊の本を完成させたいという目的意識をもつことで、必要感をもって造形活動に取り組むことができるだろう。そして、形や色、表現技法を様々に試しながら、表紙の絵に表したい場面の様子や登場人物の心情に合わせて表現を工夫することができると思う。扱うことのできる材料や用具が広がり、様々な表現技法を身に付けてきたこの時期に、自分のイメージに合った形や色、表現技法を見付け、表現することができたという達成感や、絵に表すことで物語の雰囲気がより伝わるようになったという実感、自分の作品を多くの人が見てくれたという喜びを味わうことは、次の造形活動や楽しく豊かな生活を創造しようとする態度につながると考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、造形活動への意欲が高く、進んで自分の思いを表現しようとする児童が多い。5月に実践した『エリック・カールの絵を描こう』では、題材から発想を膨らませ、形や色、材料の特徴に着目し、これまでに身に付けた技能を生かしながら、絵に表す活動を楽しむことができていた。また、10月に実践した『いろんな表現、いい感じ』では、スパッタリングやドリッピング、吹き流しなどの様々な表現技法を組み合わせながら絵に表すことを経験してきている。さらに、毎週1回の学級タイムにおいて、絵画の比較鑑賞や、絵本の表紙を鑑賞する活動に取り組んでいる。特に、絵本の表紙の鑑賞では、「明るい色がたくさん使っているから、楽しい内容の絵本だと思う」「手をつないでいる絵が描いてあるから友情を表しているんじゃないかな」など、表紙の絵から物語の内容を想像することができる児童も増えてきている。

一方、授業において、活動を楽しむことだけで満足してしまい、自分の思いを十分に作品に込めることができない児童もいる。本題材では、活動を楽しむことはもちろん、様々な表現方法を試しながら自分の表現を探究し、粘り強く学習に取り組む児童の姿を目指していきたい。

(3) 指導について

国語科で書いた物語から発想し、一冊の本にしたいという児童の思いを大切にすることで、児童が造形活動への必要感をもつことができるようにする。まずは、表紙の絵のイメージマップを作成することで、表したい場面の様子や登場人物の気持ちを明確にし、それに合う形や色、表現技法を考えることができるようにしたい。また、児童が形や色、表現技法を自由に試すことができるような学習環境の工夫を行い、一人一人の個性が発揮できるようにする。必要に応じて物語を読み返したり、友達にアドバイスしてもらったりするなどの活動を取り入れ、表したいことに合った表現に近づけることができるようにしたい。終末には、国語科で書いた物語と合わせて一冊の本にする。その上で鑑賞活動を行い、自他の造形活動を認め合う場面としたい。そして、図書室などの多くの人に見てもらえる場所に展示することで、児童の身近な生活へとつなげていきたい。

3 本時の指導(2/4)

(1) 指導目標

場面の雰囲気や登場人物の気持ちを絵に表すために、形や色、表現技法を選び、工夫しながら、表したいことに合わせて表現をすることができるようにする。

(2) 評価規準

- ア 表したいことに合わせて形や色、表現技法を選び、工夫して表している。 【知・技】
- ウ 進んで絵に表す活動に取り組み、自分のイメージする表現に近づけようとしている。 【主】

(3) 展開

学習活動と児童の反応 ([])	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 学習の見通しをもち、めあてを立てる。(5分)</p> <p>・前の時間にいろいろなことを試して、表したいことに合った形や色が見つかったよ。</p> <p>・表紙を描いたら、ぼくだけの本ができあがるぞ。</p>	<p>1-(1) 本時の見通しをもつことができるように、前時の活動を想起する。</p> <p>1-(2) 本時のめあてをもち、活動意欲が高まるように、数名の児童の物語への思いと前時で試した表現を紹介する。</p>
<p>めあて 形や色、表現技法を工夫して物語の表紙の絵をえがこう</p>	
<p>2 形や色、表現技法を工夫して絵に表す。(35分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習環境の工夫</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">カラージュ、スタンプの材料置き場</div> <div style="text-align: center; margin: 0 10px;"> <p>これまでの鑑賞活動での学びを掲示</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">パス、ペン等の画材置き場</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教</div> </div> <div style="display: grid; grid-template-columns: repeat(3, 1fr); gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児</div><div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児</div><div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児</div><div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児</div><div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児</div><div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児</div><div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児</div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> スパッタリング ドリッピング 吹き流しコーナー (前面にこれまでの児童の活動の様子や気付きを掲示) </div> </div> </div>	<p>2-(1) 表したいことに合った形や色、表現技法を選び、組み合わせながら表現することができるようにするために、絵の具やパスなどの用具、表現技法の場を設定する。また、これまでの学びを共有できるような掲示を行う。</p> <p>2-(2) 活動の参考となるように、前時に書いた学級全員分のイメージマップをテーマごとに掲示しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>◆ 表したいことに合った形や色、表現技法を見付けているか。(活動の様子) 【知・技】</p> <p>○ 表したいことに合わせて、形や色、表現技法を選んでいる。</p> <p>→ 物語の内容や表したいことを尋ね、前時の活動を振り返りながら表したいことに合った表し方を一緒に考える。</p> </div>
<p>・友情がテーマだから、あたたかい感じがするオレンジ色やピンク色を多く使うよ。</p> <p>・主人公の嬉しい気持ちを表現したいから、主人公の表情を工夫するよ。</p> <p>・勇気を表現したいから、勢いよくスパッタリングをしよう。</p> <p>・学級タイムで鑑賞した絵本は、題名の文字にも工夫がしてあったな。文字も工夫してみるといいかも。</p> <p>・イメージと何か違う感じだな。もっとイメージに合う形や色があるかもしれないな。</p> <p>・同じテーマの友達はどうな風に描いているのかな、友達の考えも聞いてみたいな。</p>	<p>2-(3) 思いを引き出したり、活動意欲を高めたりするために、それぞれの児童に称賛や共感の声掛けを行う。</p> <p>2-(4) 活動が広がるように、イメージマップにはないアイデアを加えてもよいことを伝えたり、児童の表現を全体で紹介したりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>◆ 自分のイメージする表現に近づけるために、進んで絵に表す活動に取り組もうとしているか。(活動の様子) 【主】</p> <p>○ 自分のイメージする表現に近づけるために、形や色、表現技法を選びながら、絵に表そうとしている。</p> <p>→ 同じテーマの友達の活動や思いを紹介し、より自分の表したいイメージに近づけたいという意欲を高める。</p> </div>
<p>3 振り返りをし、次時への見通しを立てる。(5分)</p> <p>・イメージに近づけることができているぞ。</p> <p>・何色にするか迷っているところがあるから、友達の考えを聞きたいな。</p>	<p>3-(1) 振り返りを記述することで、次時への見通しをもつことができるようにする。</p> <p>3-(2) 様々に表し方を試す姿を称賛し、活動を価値付けることで次時への意欲につなげる。</p>

授業の実際と考察 ～第3学年「絵から広がる物語」における実践を通して～

- (1) 表現する活動において、思い付いたことや表したいこと、イメージしたことを言語化すること／表し方や主題について、考えたことを言語化すること

題材の1時目、絵の制作に入る前に、物語のテーマ（友情、挑戦など）や登場人物の心情などを、どのような形や色、表現技法にすれば表現できるかを考え、イメージマップに表した（図1）。本題材のような造形活動の場合、児童の頭の中には、完成作品のイメージがある程度できあがっている。イメージマップによる言語化は、頭の中のイメージを具体化したり、より適した形や色を選択したりすることにつながっていた。実際に、絵の制作の場面では、イメージマップを基に、どんどんと自分の思いに合った形や色、表現技法を選択し、描き進める児童の姿が見られた。さらに、全員のイメージマップを掲示することで、友達のアイデアに触れ、思いを共有しながら活動することにもつながった（図2）。

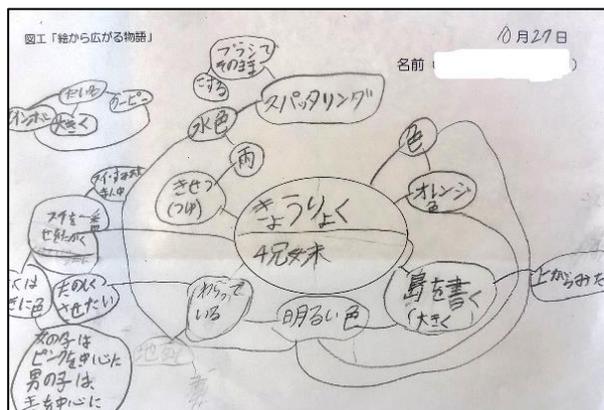


図1 児童が作成したイメージマップ

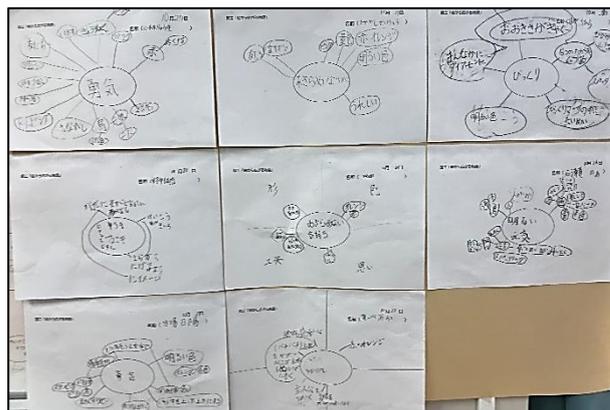


図2 図工室壁面に全員分を掲示

- (2) 鑑賞する活動において、感じ取ったり考えたりしたことを言語化すること／他者と交流すること

題材の終末場面、「たくさんの人に読んでほしい」「友達の本を読んでみたい」という児童の思いから、互いの本を鑑賞する活動を設定した。児童は物語の内容と共に、その内容に合わせた表紙の絵の工夫を見付けることができていた。同じ思いをもって活動に取り組んだからこそ、友達の表現のよさに気付くことができたと思われる。鑑賞する際には、表紙の絵のよさに対する気付きをピンク色の付箋に、物語の内容に対する気付きを黄色の付箋に書くこととし、絵のよさについては、形、色、作者の思いの3つの視点を示した。児童は自分の作品を紹介したり、友達の作品を鑑賞したりしながら、自分の思いを言語化して友達に伝えていた（図3）。言葉で伝えるだけでなく、付箋に書くことで考えが明確になり、友達から付箋をもらった児童は、自分では気が付けなかった造形的な価値に気付くことができていた。この後、「もっと友達の作品が読みたい」「家族にも読んでほしい」という児童の提案により、貸出カードを準備して互いの本の貸し借りができるようにした。

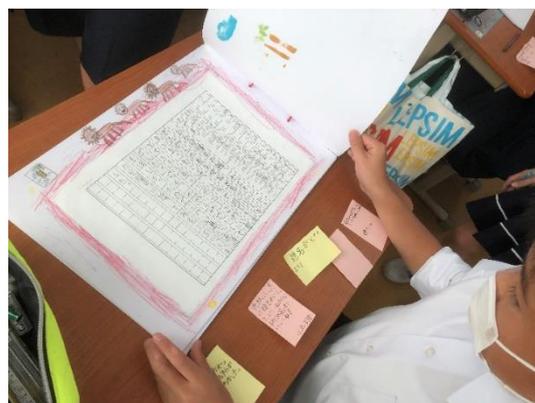


図3 友達の作品を鑑賞する児童

